

北九州市立菊陵中学校
学校だより
令和4年3月4日号
校長 上赤義人

学校教育目標
生徒一人一人の個性の伸長を図り、
徳・知・体の調和のとれた、
感謝の心をもつ自主した生徒の育成

あいさつの大切さ

「おはようございます」「こんにちは」「さようなら」など、しっかりと言えていますか？相手の顔を見て、相手に聞こえる声の大きさと、そして頭を下げた…あいさつは、できていますか？

あいさつには大きく二つの意義があると思います。

その一つは、「あいさつは、これから共に過ごす時間や共有する場をよい雰囲気にしてくれる」というものです。朝、会ってあいさつを交わすと、一日が、互いに気持ちのよい、快いものと感じられるのは、そういう意味をあいさつがもっているからなのです。あいさつによって、共有の場で共に一日を過ごすすべての人が、すがすがしい心で生活をする基盤ができるのです。

あいさつのもう一つの意義は、「あいさつは、互いの存在を認め合うという人間関係の基本となるものである」ということです。こちらがあいさつをした時に、相手からあいさつが返ってこない、無視されたような気持ちになるのは、そのためであるといえます。人は誰しも、自分の存在を認めてもらうこと嬉しいものであり、安心した気持ちになれるものなのです。

あいさつは、どちらから先にするというものではありません。相手の存在に気づいた方からするものだと思います。私は、本校の生徒同士、生徒と教職員、教職員同士、そして、来校されたお客様へも、これまで以上にしっかりとしたあいさつの行き交う学校であってほしいと願っています。

そんな学校の原動力となるのが、1・2年生のみなさんです。新入生へ先輩としてあいさつの模範を見せてもらいたいです。期待しています。

3年生には、4月からの新たな環境の様々なスタート場面で、あいさつを大切にしてもらいたいです。ちょっとしたあいさつから、不安な気持ちが消えたりするかもしれませんから…。

地獄と極楽

ある人が地獄を見学に出かけました。地獄の入り口で、エンマ様に見学を申し込むと、断られましたので、玄関の窓から中をのぞいてみますと、食卓には大変なごちそうが並んでいます。鯛の刺身やおいしそうなお寿司などがあり食欲をそそります。よく見ますと、地獄に入れられた人々が、そのごちそうの間を行き来しています。が、どの人もみんな痩せていて骨ばかりです。一方の手は使えないように縄でしばられ、もう一方の手には1メートルもある長い箸がひもで結びつけられています。人々はおなかをすかして箸をしきりに動かしてごちそうを口の中に入れようとしています。しかし、箸が長すぎてごちそうがほとんど口に入りません。やっと口に届いたと思うと、ほんの少しばかり食べると落ちてしまいます。ごちそうを目の前にして、だれも皆おなかをすかしているのです。

地獄を見学した後、隣の極楽を見学することになりました。極楽のようすは、意外なことに前に見た地獄の部屋と変わりました。長い箸を持たされた人々が何人も行き来しているのも地獄の部屋と同じです。ただ一つの違いは、どの人もみな、ごちそうを箸ではさんでは、それを自分の口ではなくて自分の周りにいる人の口に入れていくではありませんか。地獄では、やせた人たちがいたが、極楽ではだれもみな健康そうで、幸せそうに見えました。

これは、私たちの現実社会を考えてみるときでも、助け合い、思いやりの心があるかないかで、社会が地獄にも極楽にもなることを教えられる話ではないでしょうか。

保護者、地域の皆さまへ

保護者の皆様には、本年度はコロナ感染防止のための様々な制約の中、本校のPTA活動をはじめ、学校・学年や学級の諸行事・諸活動に対し、多大なるご理解・ご協力をいただいたことに深く感謝いたします。

また、地域の皆様には、陰ながら学校そして子どもたちを支えていただきありがとうございます。

来年度に向けて、よりよい菊陵中学校を目指してまいります。今後とも、よろしく願いいたします。